

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人 慶成会		
事業所名	グループホーム 花みずき《幸館》		
所在地	静岡県浜松市西区大山町 2882番地		
自己評価作成日	平成21年12月9日	評価結果市町村受理日	平成22年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JcD=2277100588&SCD
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県駿河区馬淵2-14-36-402
訪問調査日	2009年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物が、グループホーム「花みずき」です。入居された方が自由にのびのびと暮らしていただけるように、配慮しています。また、入居されている方と職員が、共に生活を楽しみ、暖かい雰囲気大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいのある生活環境がある」一棟の3つのユニットが小路でつながれ、小さな街となっている。そのため、交通事故の心配などなく散歩や戸外活動ができる環境にあり、ご近所づきあいという点においても最小限ではあるがユニット間で成り立っている。「利用者本位のケアが充実している」利用者3名に職員1名、また4名の職員対応も月の半分あり、配置が潤沢である。そのためか、職員もゆったりとしており、利用者さんのリズムに合った動きができています。「ご家族と伴にあるという考え方がある」運営方針は「ご家族と二人三脚をしよう」。自分の家の延長として事業所があるという考えのもと、自律した生活を送って頂けるよう支援して

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆったり、よりそって」という法人の理念の下、法人内の他の事業所と連携しながら、「花みずき」として出来る限りの実践に協力している。また、事業所の理念は現在見直しを行っている。	管理者をはじめ職員は、法人理念とともに「自分がここにいたいか」ということを念頭においている。また、さらに意識と行動が一体化した自然なサービス提供を目指し、全ての職員で理念の見直しに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小中学生やボランティアの方との定期的な交流の機会はあるが、日常的な交流は出来ていない。敷地内のお地蔵さんを介して、隣のケアハウスの住人との日常的な交流はある。	街中から離れているが、3つのユニットの建物の間をつなぐ小路を歩き来し、他ユニットを訪問している。また、同法人のケアハウスとの交流も日常的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が行う地域交流事業に参加することにより、事業所の役割を活かした地域貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回定期開催しており、民生委員や市の職員等の委員に対して運営状況などの報告や話し合いを行っている。また、そこでの意見は積極的に運営やサービス向上に活かしている。	テーマ設定も練られており、開催頻度も適正である。アクシデントがあると開催が遅れがちになる点と、近隣(多少広域であっても)住民の参加が課題であるとの気づきを持っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として市の職員に参加していただき、連携を取っている。また、浜松市介護サービス事業者連絡協議会の理事として、浜松市との連携を取っている。	郵送で済む書類においても直接届け、情報交換の機会を作っている。また、質問や問い合わせはもちろんのこと、困難事例の相談もできる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを置き、研修への参加の機会を作り、職員への教育を行っている。また、毎月のケア会議等を通して身体拘束が行われないように注意している。	高齢者虐待防止の学習テキストを使って詳細な事例検討に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修に参加したり、事業所内での学習会を開くことにより、虐待防止を徹底できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で行う職員研修に参加することにより、権利擁護に関して学ぶ機会を作っている。また、既に成年後見制度を利用している利用者がいるため、日々支援し学びを得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約に関する説明を充分に行い、途中においても質問には丁寧に答えている。また、制度や内容が変わった時には、年2回の家族会等を通して十分に説明し納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回行う家族会では、毎回ご意見やご要望を聞き運営に反映させている。また、運営推進会議へ家族代表に参加していただいたり、家族面談時等の場を利用して積極的にご意見を聞くように努めている。	面会など日常的な場面でお話を伺っている。職員は、外からの訪問者に対してオープンな姿勢を持っており、挨拶がよくできている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議やホーム長会議を通して職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。また、業務改善アンケート等を実施したり、職員面談等を通して積極的に意見を聞き機会を作っている。	賞与時には個人面談の機会がある。また、スーパービジョンも導入している。業務改善アンケートでは、状況把握ならびに課題も明確となった。また、これらのプロセスを通じ、職員の気持ちもさらにまとまった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課の評価と面接を行い、年1回職員の意向調査を行うことにより、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修として、毎月1回職員研修を行っている。また、法人として職員のキャリアアップ研修を毎年実施したり、介護福祉士取得のための支援にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、浜松市介護サービス事業者連絡協議会と県グループホーム連絡協議会の理事を務めていることもあり、同業者と交流する機会を積極的に作り、参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や面接時には、利用者本人の気持ちを受け止め安心できるように配慮している。また、ご家族等からの情報収集を積極的に行い入居時の精神的負担の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談や見学時には、家族が困っていることや不安なことを丁寧に聞くようしている。また、必要に応じてアドバイスをするなど家族への援助にも心掛けて、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内事業所が連携をとりながら総合的に地域のニーズに応える体制をとっているため、相談の段階でその時に必要なサービスの利用が出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に炊事、洗濯をしたり、テレビやお茶の時間を楽しんだり、関係を築けている。しかし、介護度の高い方は一方的に介護される対象になりがちである。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来館時は近況報告をし、利用者の生活上の課題などを一緒に考えていただけるよう努めている。また、行事などご家族に連絡し参加を勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴や言動から、馴染みの人や場所の話を傾聴するように努め、ご家族からの情報を基に支援向上に努めている。しかし、入居後友人知人との関係が薄れてしまうことも多く、その支援が出来ていない。	馴染みのあった人や趣味歴などをアセスメントシートで確認している。機会に応じて話材として提供し、利用者にとって大切なものを職員も共有するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや炊事洗濯などの日常生活や、利用者が集れる環境づくりなど、利用者同士が関わり支え合える状況づくりをして、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、関係が途絶えてしまうことも多いが、必要に応じてご家族の相談や連絡に対応したり、同じ法人内の施設に入居となった場合には面会に行ったりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向の把握に努めているが、なかなか正確にはつかめていないと思う。職員間での情報交換により利用者の思いに向き合うことは出来ていると思う。	気持ちをどこまで察することができるかには確信が持てないが、言葉になったことには全ての職員が全力で支えている。ターミナルに入った伴侶の病院訪問を週何度も送迎したこともある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族等にセンター方式のアセスメントを記入していただき、情報把握に努めている。また、不明な点などはその都度ご家族等に聞くようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り、カンファレンス等により、利用者一人ひとりの現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、職員全員で意見を出し合い、必要に応じて医師や看護師、リハビリの先生からアドバイスをもらっている。また、ご家族からの意見や希望をケアプランに反映させるように努めている。	個別ケアが前提で取り組んでいる。排泄介助、食事介助といったカテゴリーに縛られず、ご本人の希望を一番に考えプランづくりをしている。職員のアンケート結果でも「(ケアに大切なことは)利用者本位である」と、大半の職員が選んでいる		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入、情報の共有は出来ている。しかし、気づきや工夫についてはケアプランに活かしてきれていないため努力したい。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の求めるニーズに対し職員間で話し合い、他事業所で行っている生け花教室への参加を支援している。また、職員では対応できない時の散歩などには有料ヘルパーの利用でニーズに応えられるようにしている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族との外出や外泊を応援したり、定期的な小学生のボランティアの訪問を受け入れているが、積極的な地域資源との協働は出来ていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等が希望するかかりつけ医がある場合は、入居後も継続してその医療が受けられるよう支援している。特にない場合は、施設と協力関係にある医師からの医療支援を受けられるようにしている。	協力医師には24時間体制をとってもらっている。受診は基本的には家族にお願いしているが、急変時など家族の対応が難しい場合は、職員が付き添う。主治医と家族の連携役になれるよう情報把握に留意している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との連絡や相談を密接に取り、必要に応じて受診したり、医師に連絡して指示を仰ぐなど、適切な対応が取れるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には早期退院に向けて病院関係者、ご家族と情報交換や相談を行うよう努めている。また、ご本人が安心できるように出来るだけ面会に行くようにしている。病院との関係づくりは特に行っていない。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時や状態が変化した際に家族と話し合い、事業所で出来る事などを十分に説明し、その後の支援につなげている。また、協力医師や同じ法人の事業所と連携して支援に取り組んでいる。	それぞれの家族の考え方がまちまちであり、契約時の説明と状況の変化に応じた都度対応が重要であると感じている。また、マニュアルの整備ならびに精神的ケアについても学習を積んでいきたいと考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で心肺蘇生法等の講習を行ったが、看護師からの指導を受ける機会はあるが、実践力に欠けているのが現状と思われる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行ったり、災害対策の研修に参加したりと充分ではないが職員教育を行っている。また、被災した場合の法人内の協力体制はあるが、地域との協力体制までは築けていない。	災害訓練は設定を毎回変え、行っている。備蓄もある。また、地域と連携した災害対策は現在は方針さえない状況ではあるが、管理者がBCP計画の研修に出向くなど防災に対する意欲が高い。	難しく考えず、「防災かるた」など遊び心を取り入れた取り組みで、少しずつでも前進することを期待している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉掛けや対応には充分注意している。		トイレ誘導は、周りの人に気づかれないように、耳元でささやくようにしている。また、申し送りは事業所内でするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を表現しやすいように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内での生活は、だいたい本人のペースに合わせて支援できている。しかし、外出時などは付き添う職員の人数や車の都合により応えることが出来ないこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時など更衣をする時には、本人の希望やその方に合わせた服を着ていただいている。また、月に1回の美容師の出張サービスでは、利用する人の好みを伝えられるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備や片付けを行っているが、特定の利用者が行うことになりがちである。		人間関係も含め、座席には配慮している。また、自力摂取が続くように支援を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立て、月1回の給食会議で内容を検討し、バランス良い食事を提供している。食事形態や器等、食べ易いよう工夫し、水分や栄養が不足している方には、その方の好みに合わせた補食品を用意している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの身体状況に合わせて口腔ケアの声掛けや支援を行っている。義歯の方は、週に1回洗浄剤を使用している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンやトイレサインを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援している。また、パット等も本人が一人でトイレに行けるように、個人に合った物を選択している。	排泄チェックにより習慣を把握できていることで、誘導がスムーズにできている。失禁やオムツも減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、排泄についての状況を職員が正確に把握し支援に結び付けている。食欲など生活の様子を見て、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者全員に対して、週に2～3回入浴が出来るように配慮し対応しているため、職員の都合で曜日や時間を決めてしまいがちである。	一人ひとり湯を入れ替えている。季節感を味わってもらえるよう、菖蒲やゆずなどの変わり湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が就寝したい時間に入床していただけるよう、介助を要する方も様子を見て就寝介助している。居室温度や明るさ等、本人が気持ちよく眠れるように調整し、夜間2時間おきに見回り安心して休めるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に職員と看護師が付き添い、医師からの指示を職員全員に伝えている。処方された薬は職員が二重に確認し、個別管理している。処方変更の際は、様子観察し、記録を取り、主治医と看護師に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合わせて役割を見つけ、環境を整えている。また、感謝の言葉を伝え、やりがいを感じていただけるようにしている。個人の趣味や習い事は、法人内の他の施設に出掛けて楽しんでいただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応えることは出来ないこともあるが、季節に合わせた外出をしている。その他にも、ドライブや買い物など利用者の気分に合わせて外出できるよう努めている。	希望にすべて応えることは難しいが、希望を聞きとり、実現に近づけるチャレンジは十分している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方にはお金を所持していただき、使用していただいているが、殆どの方が自己管理するのが難しく、使用する機会があまりない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が心地よく暮らせるように、照明や温度を調整し、テーブルや椅子などの配置を工夫している。また、季節感を感じていただけるように、装飾なども工夫している。	声の大きさなど対人関係の空間管理について、職員は配慮している。また、季節を感じることができる小物もさりげなく飾るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファセットを置き、廊下や玄関、玄関先にもベンチ等を設置して、いつでも誰でも使用できるようにしている。介助を要する方も、居心地良い場所に居られるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族と相談し、使い慣れた家具や愛用していた物などを持ってきていただき、落ち着ける空間になるように努力している。	家具の配置は危険のない範囲で家族にお願いしている。自由に好みの家具や小物を置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には、一人ひとり違う色が使用されており、表札には名前と一緒に本人の写真を入れて、自分の居室を認識しやすくしている。トイレ入口にも表示をし、分かりやすい工夫をしている。		